

2012年度

緩和ケア認定看護師養成事業実施報告



2012年度緩和ケア認定看護師養成事業実施報告

久留米大学認定看護師センターは、認定看護師3分野（緩和ケア・がん化学療法看護・がん放射線療法看護）の教育課程を開講しています。「特定の看護分野における高度で専門的な知識及び実践力とともに、倫理観、教育・調整能力を身につけ、保健医療福祉活動において看護活動の質の向上に資する人間性豊かな認定看護師を育成する」という教育目的のもと、学生が相互に切磋琢磨しながら最新の知識と技術について学んでいます。

緩和ケア看護師を養成する緩和ケア分野では、2012年度は28名が修了しました。学生は、「いのち」を支える質の高い看護を提供することを目標に学修に取り組みました。各科目の授業を通して、高度で専門的な知識と技術を会得し、患者さんと御家族に寄り添い、本来持つ力や希望を支えることが、QOLを向上させ「ただ一つの人生を最期までその人らしく生き抜くこと」の支援となると学びました。また、学生自身の看護観や死生観に向き合うことで、認定看護師としての精神を養うことができました。学生は、教育課程修了もここで出会えた仲間との絆を大切に、緩和ケアを広く浸透させるために研鑽を積みながら社会に貢献していきたいと考えています。

以下は、修了生の学修成果として、「修了生報告」と「事例集の概要」をご紹介します。

修了生報告（学びの成果、現在の活動状況、今後の抱負など）

活動報告と今後の活動目標

有田 まゆか

現在、地域の中核病院の一般病棟で勤務していますが、今後新しく緩和ケア病棟の設立が決定しています。緩和ケア病棟開設に向け、現在、研修で学んだことを生かし、多職種と連携しスタッフ教育やボランティア講座について取り組み始めました。また、「緩和ケア」について、興味を持ってもらうために病院スタッフに向けて勉強会を平成25年度に1年間かけて行う予定になっています。緩和ケア病棟開設に向けて、共に活動を行っているスタッフと協力し、共通の目標を持ち、自分が行うべきことやできることを考えながら活動していきたいと思っています。

今後は、緩和ケア病棟で一人でも多くの患者・家族がその人らしい生活が送れるような援助を行ってきたいと考えています。

教育課程終了後の活動報告

入江 弘子

所属部署では認知症があるがん患者さんに対応をしています。また、他部署へ出向いて、患者さんの情報を収集しスタッフからの相談を受けたり、主治医と疼痛コントロールについて相談したりして、現場のスタッフと一緒に患者さんについて考え対応するようにしています。そして、スタッフの緩和ケアについて看護する考えも個々に違い、看護観も違うため、スタッフの気持も聞きながらスタッフ間の調整をおこなっています。

教育課程修了後、院内新人看護師・介護士の勉強会で、エンゼルメイクについて講義をおこないました。今後も緩和ケアについて、ケアの方向性が統一できるように、勉強会を開催していく予定です。

緩和ケア認定看護師の認定後の具体的活動予定は、現時点ではまだ決まっていません。取得後に活動の方向性が上司と相談の上決まる予定です。しかし、がん患者だけでなく、患者さんの生活の場が、個々のレベルに合い、その人にとってQOLが向上、維持できるよう支援していきたいと思います。

いのちに向き合うということ

上原 菜穂

紅葉が散り、冬が訪れようとしている久留米をあとにし、12月とは思えないほど暖かい沖縄の地に戻り4か月が経ち、沖縄は早くも初夏の訪れを感じさせる季節になりました。久留米大学認定看護師教育センターで「緩和ケア」について集中して学んだ6か月間がついこの間の出来事とは思えないほど、慌ただしく毎日が過ぎ去りあっという間の4か月でした。

私は現在、入学前と変わらず緩和ケア病棟で勤務しており、活動としては以前と変わらない業務を行っています。教育課程で学んだことが十分に活かされていないと反省ばかりの毎日ですが、以前と変わったことは、患者様とご家族の限られた時間を支える看護師として「いのちに向き合う」という意味を考えるようになりました。患者様のいのちの灯火が消える最期の瞬間まで、緩和ケア認定看護師だからこそ提供できる支援ができるよう、日々のお会いに感謝し、認定審査に向けて取り組んでいきたいと考えています。

教育課程終了後の活動報告

松田 留理子

認定看護師教育課程終了後、施設へ戻り、今後の活動内容について看護部長と話し合いを行いました。所属している緩和ケア病棟での勤務を中心に、学んできた知識や技術を活

かし、患者とその家族に対する看護に取り組むということが目標となりました。そのためには、病棟スタッフへの教育やコンサルテーションも行って欲しいという希望を看護部長から伝えられました。この目標の達成のために、どの程度の期間をかけるかなどの具体的な活動については未定です。今後、自分が不在にしていた6か月間を支えてくれた病棟スタッフと共に考えていきたいと思っています。また、認定看護師教育課程修了後、産前産後休暇と育児休業に入ってしまったため、施設での活動はできていない状態にあります。緩和ケアの認定看護師資格を取得し、目標達成へ向けて環境を整え、現場復帰できるように現在は自宅で試験勉強を中心に取り組んでいます。

活動報告

尾堂 将志

久留米大学認定看護師教育センターを修了後、184床の急性期病院に勤務しています。所属する病棟は、検査入院から手術、化学療法、症状緩和、看取りとさまざまな過程の患者が入院しています。4か月が経ちましたが、まだ自分の役割の変化に戸惑い、学んできたことを活かしていないのが現状です。しかし、共に学んだ仲間や教育センターの先生方に励まされ、支えられ頑張っています。

現在私は、緩和ケアチームの一員としてカンファレンスに参加し、各部署のラウンドをチームメンバーと共に行っています。その中で当院のスタッフや患者・家族が緩和ケアをどのように意識しているかを知り、今後のチームの在り方を考えながらチーム活動を展開させていきたいと考えています。そして、さらに院内だけの活動だけでなく院外のことへも目を向け、日本財団の皆様が目指す「みんなが、みんなを支える社会」をつくっていくことへも微力ながら貢献できたらと考えています。

教育課程終了後の活動報告

河野 えり

当院は100床の急性期の病院です。私の所属している病棟は、50床の外科、整形外科病棟であり、緩和医療を必要とする患者は多い時で1割程度入院しています。急性期の病院であり、緩和医療を必要としている患者に十分な設備はなくても、安楽に過ごしていただく為にスタッフとともに努めています。しかし、緩和医療に対する専門的知識が不足しているスタッフが多く、日々患者を通し、どのような看護を提供していくべきか、状態に対するアセスメントなど共に考えながら緩和医療に対するスタッフの知識向上に努めています。

認定看護師教育課程修了後から、病院ではがんカウンセリング料の取得を申請しています。患者説明の際には同席できるように医師にも協力を依頼し、がんカウンセリングを実

施しています。

今後は、院内外での講義を行い緩和医療の普及に努め、院内では患者説明に積極的に介入し、治療初期から患者の支援が行えるように努めていきたいと思えます。

また、当院の訪問看護ステーションと協力し、患者の療養場所が自由に選択でき継続した看護が行えるよう努めていきたいと思えます。

認定看護師教育過程終了後の活動

野中 幸（旧：久世）

消化器病センターに、スタッフナースとして所属しています。

病棟スタッフの看護師に対し、緩和ケアの基礎知識の勉強会を月に1回開催しています。内容は痛み、呼吸困難、エンゼルケア等です。また、全看護スタッフを対象に事例発表、研修期間の報告会を実施し、自部署では患者カンファレンスにできるだけ参加して、緩和ケア対象者へのケアについて指導・相談を行っています。さらに、エンゼルケアの物品の整備等を行っています。

がん看護委員会にも所属し、他スタッフと協働して院内の緩和ケアマニュアルの見直し、疼痛評価の患者説明用ツールの見直し、エンゼルケアの手順の見直しを行っています。

緩和ケア認定看護師認定資格獲得後も引き続き消化器病センターに勤務予定です。そのうえで、院内のがん対策委員会の緩和ケアチームに所属します。週に1回の活動日には、緩和ケアチームの回診に同行し、そのなかで疼痛評価を全患者に行えるようにスタッフへ指導し、調査やフィードバックを行いたいと考えています。

認定看護師教育課程修了後の活動状況

熊谷 弘美

緩和ケア病棟のスタッフの一員として働いていた私は、教育課程修了後も、6か月前と変わらずスタッフとして、患者さんとそのご家族のケアを仲間と一緒にしています。周りが期待している働きはできていませんが、教育課程で学ぶ前後で、明らかに私の視野は広がっていると感じています。認定看護師の認定後も、私は、緩和ケア病棟で働き、一人一人の患者さんが最後までその人らしい生を全うする手助けができるように、スタッフみんなを巻き込んで、日々悩んでいきたいと思えます。また、多職種と協力して、チームで、より行き届いたケアを提供できるように、メンバー間を調整する役割を担っていきたいと考えています。

がんサバイバーの皆さんが、いつでも、どこでも、緩和ケアを受けることができるように、まずは、私の住む地域から、微力ながら貢献出来ればと思っています。

認定看護師教育課程修了後の活動状況

後藤 めぐみ

教育課程修了後、緩和ケア認定看護師として、現在の自施設に必要な活動は何かを看護部長とともに検討しました。その中で、入院時に初めて患者と関わる機会を持つのではなく、外来相談の時点からの関わりが必要であること、また、病棟看護師の知識不足を指摘され、教育、指導の必要性も大いにあることなどが挙げられました。

現在、私は訪問看護に従事しており、在宅看護を実践しています。職場のマンパワー不足に加え管理業務の必要もあり、日々の訪問看護の業務を行っていくのが精一杯の状況で、教育課程で学んできたことや看護部長と検討したことが十分に発揮出来てないのが現状です。

緩和ケア認定看護師の認定後の活動として、緩和ケアの在宅看護には訪問看護の必要性が大きいことを医師、病棟看護師に理解してもらうことから始めていきたいと考えています。そのためには、まずは在宅での患者の情報提供を密に行うことから始め、顔の見える連携を図っていききたいと思います。同様に在宅スタッフへも統一した看護を実践できるように勉強会を実施し、知識の向上につながるように関わっていくことを目標にしたいと考えています。

認定看護師教育課程を終えての現状と今後の課題

小林 理絵

私の勤務する病院は、5月から緩和ケア病棟が開院する予定です。現在は一般病棟に勤務しながら、緩和ケア病棟開院の準備にむけて様々な取り組みをしています。

病棟新設に携わった経験がないために、どのような事をどのように決定していくべきか不安で一杯ですが、教育課程で一緒に学んだ仲間に助けられています。実際に緩和ケアに勤務する仲間から情報や経験を教えてもらい、困ったときには支えられています。

今後、緩和ケア病棟が開院してからは教育課程での主軸となった「実践」が求められます。患者さんへのケアを通して、緩和ケアの経験が全くないスタッフへの「指導」も必要です。また、一般病棟にも入院しているがん患者さんへのケアに奮闘しているスタッフへの「相談」役にもならなければなりません。求められる役割が大きくなりますが、半年間で学んだことを活かして、まず自分の病院内で緩和ケアが普及していくように努めていきたいと思っています。

認定看護師教育課程修了後の活動報告

坂口 由紀子

久留米大学認定看護師教育課程を修了し、通常業務に戻り周囲のスタッフからの期待を感じながら業務を行っています。私は、緩和ケア病棟に勤務しており6か月の教育課程で学んだ知識・実践を通してスタッフに還元できるように努めています。患者、家族との関わりを通して、スタッフと共に悩みながら、より良いケアを提供できるように日々苦戦しています。その中で、経験知や感覚・感情論でケアを計画していくのではなくエビデンスに基づいて実践できるようケアの意味付けを意識しながらスタッフと関われるように努めています。

また、法人としては緩和ケアセンター化の構想があり、私は病棟主任としてだけでなく、兼任でセンター主任を担うこととなります。訪問看護を立ち上げ、緩和ケアを必要とする患者、家族が安心してそのひとらしく在宅で過ごせるような環境調整、関係機関との連携が必要になってきます。

私には荷が重いのですが、上司や他の認定看護師と相談しながら地道に着実に役割を果たそうと考えています。

認定看護師教育課程修了後の活動報告

田口 直美

緩和ケアに関する学びを深めることができたおかげで、自施設での問題点や今後の展望を考えることができるようになってきました。

私が自施設に戻ってから現在までの約4か月で行ってきた活動は、主に緩和ケアチームの充実に向けた取り組みがほとんどです。当院はまだ、緩和ケアチームが発足して日が浅く、兼任スタッフが勤務の合間を縫って細々と活動しているのが現状でした。まずは緩和ケアチームでのカンファレンスの活性化を目的に積極的に発言すること、各々の専門性を持ち寄ってカンファレンス・回診を毎週行って患者さんの苦痛を取り除けた症例を成功体験として振り返りを行うことを通して、チームの成長と自信をつけることを目指しました。

これからは、緩和ケアチームの基準・手順、緩和ケアサマリーの見直しも行ったうえで、まだまだ末期医療と思われがちな緩和ケアを「がんと診断された時から」患者様に提供できるよう院内全体への普及活動に努めていきたいと考えています。

認定看護師教育課程修了後の活動報告

竹崎 薫

久留米大学認定看護師教育課程緩和ケア分野での学びを終えて、4か月が経ちました。修了後、一般病棟の煩雑な業務の中で「どのように緩和ケアを行っていけばいいのか」随分悩んだ時期もありましたが、まずは自らが実践しその姿を見て何かを感じてもらえればいいと考え、日々のケアを行いながら患者や家族の思いに向き合っています。

現在の活動は、ケアに関する病棟スタッフからの相談を受けることや緩和ケアに関するスタッフ教育を行うことが主になっています。また「緩和ケアとは」「認定看護師とは」について院内研修会を行う機会を得ることもできました。平成25年度は緩和ケアに関する院内研修をシリーズで開催する予定で、指導内容計画を検討中です。また、地域での緩和ケアに対する認知度も高いとはいえないため、今後は啓発活動も行いたいと考えています。

研修中に思い描いた認定看護師像に近づけるように、さらに自己研鑽していきたいと思っています。

認定看護師教育課程修了後の活動報告

田中 千穂美

私は、現在61床の小規模な急性期病棟に勤務しています。

主に肝臓疾患がほとんどでがん化学療法や経皮的治療が行われています。一方では終末期の患者さんもおられる病棟ですが、がん治療の医療業務に追われ、ゆっくり患者さんと向き合って話をする時間もなく、周りのスタッフの緩和ケアへの認識は高いとはいえないのが現状です。

患者さんと向き合って話す時間を作ることや、患者さんの気持ちに寄り添い共感していくことが、緩和ケアでは重要な位置を占めることを実感しています。認定看護師として、具体的な活動は行えていませんが、今は患者さんの話を傾聴し、共感して傍にいたいことなど、自分にできることを行っています。

今後は、スタッフの意識の向上に努め、緩和ケアへの体制を整え、患者さんやご家族が安心できる看護、環境を提供していきたいと考えています。

認定看護師教育課程修了後の活動報告

戸高 真由美

12月1日、研修を終え自施設に帰ってきました。最初は気負いすぎ、自分の気持ちだけが焦っていました。救急病院なので患者さんの対応、ご家族の対応、医療処置などに追われていました。

徐々に病棟内で患者さんの話をゆっくり聴くということができてきたのは最近です。トータルペインの視点にたった考え方が、この教育課程で身につけてきたのではないかと考えます。がん患者さんに介入できる環境をつくっていただき学んできたことを少しずつ実践しています。

今後も「自分を信じ、今できることを精一杯やっていく」ということを心がけ、患者さんやご家族に寄り添っていき、喜ばれるような看護を目指していきたいと考えています。

認定看護師教育課程修了後の活動報告

中村 園美

半年間の緩和ケアについて学びを終えて、慌ただしく2013年の新しい年を迎えたと思っていたら、もう熊本は桜の花が満開になりました。在学中は想像以上に大変でしたが、同じ志をもった仲間と泣いて笑い、いつも励まし支えてもらい、臨床の場に戻ることができ、今できることをコツコツ取り組んでいます。

まずは、認定審査まで気を引き締め頑張りたいと思います。

認定看護師教育課程修了後の活動報告

新留 咲子

現在は、認定看護師教育課程を修了してから自施設の緩和ケアチームでの活動を行っています。また、内科病棟に所属しているため、入院患者へのケアでは、介入が困難である精神的な苦痛への援助や在宅支援、家族へのケアなどに関わるが増えたように思います。緩和ケアチームでは、病院内の研修を実施し、全職員対象にスピリチュアルケアをテーマに研修会を行いました。また看護職員対象に伝達講習という形で、緩和ケア認定看護師教育課程でどのような内容の教育を受けてきたのかということと、私が学んだ中で職員に伝えたいと思ったことを報告させていただきました。

今後の展望としては、まず資格習得が一番ですが、入院患者への介入だけでなく、緩和ケアを必要とする外来患者への援助にも取り組んでいく予定となっています。また、自施設に訪問看護部を立ち上げる企画があり、現在管理部で準備中となっています。今後は在宅療養にも視野を広げ、他の施設との連携・地域との連携を行い、患者・家族の方が安心して療養できる環境（病院・在宅関係なく）を提供できるような関わりをしていきたいと思っています。

病院勤務に復帰して

西山 ルリ子

6月～11月の認定看護師教育課程を終えて、12月から職場に復帰しました。初めは日々の業務に慣れることが大変で、5月の試験に向けての勉強と仕事の両立は困難でした。しかし、勉強したことが患者に活かされることを考えると、勉強することが苦痛ではなく楽しくなってきました。

病院では、緩和ケアチームの活動をしていますが、今まで行われていなかったチームの病棟ラウンドが4月から行われる予定です。今後は、患者の苦痛の緩和が以前より充実したものになり、病棟の看護師に緩和ケアチームがどのようなことをしているのかを分かってもらえるよい機会になるのではないかと考えます。

認定審査の終了後は、緩和ケアのことを少しでも多くの人に理解してもらうために、勉強会を行っていかこうと思っています。今後も日々努力していきます。

認定看護師教育課程修了後の活動報告

野口 明子

自施設へ戻り4か月が経とうとしています。勤務に戻ると、1日1日があっという間に過ぎ、認定審査までわずかになろうとしています。勤務と並行しての学習は思うように進まず、気持ちばかりが焦り、頑張ろうとするものの疲労に負ける日々です。教育センターでの生活を振り返ると、集中して学ぶことのできた濃厚で充実した時間であり、とても貴重な日々であったことを、いま実感している状態です。

自施設へ戻り、多くの方々から「お帰りなさい。何の認定を取りに行ったの」と、声をかけてもらいましたが、「緩和ケア」と返答すると、「それは何」と質問されることがありました。今後の課題として、緩和ケアの理解と普及を目指す必要があると感じ、院内での私の存在と、何を行うのかをアピールしていく必要があると考えています。

現在は自施設の現状を把握し、がん患者さんへの看護実践、他看護師へのアドバイスをしながら、認定審査合格を第一に自己学習を行っています。

積極的な活動は認定審査後になりますが、一緒に活動してくれる多職種の仲間を作りながら、院内で緩和ケアが積極的に行えるように取り組んでいこうと考えています。

修了後の活動状況・今後の活動予定

野中 小夜香

教育課程を修了してから、早いもので4か月が経過しようとしています。久留米大学認定看護師教育課程で緩和ケア認定看護師に必要な看護技術や知識を深めてきました。

修了後は、同じ職場に復帰することができ、今までと違った看護ケアを実践していきたいと意気込んでいました。しかし、求められるものは緩和ケアに特化したものではなく「リーダーの再教育、考えながら動くことのできる看護師の育成」という看護師に対する教育や指導のやり直しでした。緩和ケアを学び、5月の認定審査にむけて実践の中から学びを深めたいと思っていた希望と、求められるものの違いにジレンマを感じていました。修了後の定期的な勉強会で共に学んだ仲間からは、緩和ケアに関する実践を深めコンサルテーションなどを行っているとの聞き、自分の実践内容との違いに「私はこれでいいのか」と焦りを感じていました。しかし教育センターで学んだ看護管理、リーダーシップなどをもとに与えられた課題に取り組んでいる状況です。

やりたいことと求められることは全く違いましたが、認定看護師教育課程を修了したからできることだと気が付き、今後も、自分が置かれている場所でできること、求められることを丁寧にやっていこうと思っています。

修了後の活動状況・今後の活動予定

長谷川 美希

認定看護師教育課程を修了し、再び臨床に戻って患者さんと関わる中で、病と闘う患者の思い、共に生きる家族の思い、支えようとする医療者の思いを、以前より広い視野で捉えることができるようになったと感じています。

私の勤務する病院は、緩和ケア病棟もチームありませんが、懸命に病と闘い、人生に向き合う多くの患者さんご家族がおられ、そこに精一杯寄り添おうとする医療スタッフがいます。

私は現在看護師として勤務しながら、寄り添う過程でスタッフが迷い悩む時、声をかけ、共に考え、教育課程で学び得た知識や技術を共有しながら、全人的な視点に基づいたアセスメント方法やケア方法を伝え、根拠をもって多職種に協同を依頼するなど、より質の高いケアに結びつけられるよう努力しています。

緩和ケアの普及にも貢献できるよう、カンファレンスや会議への参加、多職種との協同などあらゆる機会において、緩和ケアについての説明や情報提供に努めています。

まだ小さな取り組みですが、今後は、緩和ケアに対する周囲の認識をより深いものにし、ケアの質を高めていくこと、核になれるチームを作り上げることなどを目標にさらに精進していきたいと考えています。

認定看護師教育課程終了後の活動報告

林 恵子

認定看護師教育過程を終えて、消化器外科病棟に戻り4か月が経過しました。

私は教育課程の中で課題となった事の一つに「スピリチュアルペインを患者さんがどのように感じ、そして看護にどう生かしていくか」ということでした。臨床の場では、患者さんは私が想像している以上にいろいろな思いを抱えて入院していることがわかり、村田理論の自律性、時間性、関係性に当てはめ看護に導こうとするとうまく行えず、困難さを感じ、戸惑いながらも考え続けている私がありました。そして、解決策へつながらなくても、患者さんと人生について語る時間や、スタッフとともに一人の患者さんについて話すことができる時間が時々あり、考え続けることが大切なのかもしれないと感じています。まだ、学んだことを十分に生かしてはいませんが、「生」と「死」について考え、スタッフとともによい看護が提供できる環境を少しずつ築き上げていきたいと思っています。

認定看護師教育課程終了後の活動報告

原田 英一

半年間の認定看護師教育課程を修了した後、私は入学前と同じ部署へ戻り、現在、病棟看護師として勤務しています。「認定試験の準備のためにも、環境を変えたくない」という私の意向もあり、元の部署へ配属となりました。それでも日常業務に追われ、自施設への還元はおろか、認定試験の勉強すら十分できない日々を送っています。そのような中で、緩和ケアチームでの活動を通して、日々の臨床を大事にし、目の前に居られる患者様とその家族から勉強させていただいている毎日です。

認定審査合格の暁には、上司と相談しながら、まず自分の活動時間を確保することから始めていきたいと考えています。その上で実践のみならず、指導・相談の面でも活動範囲を広げ、自施設、また地域の緩和ケアの浸透に少しでも貢献することができればと考えています。そのため、現在認定審査の準備と並行して、今後の活動計画や教育プランなどを立案しています。

私は認定看護師教育課程を通して、自分が理想とする道と、共に歩む仲間を見つけることができました。今後も努力していきたいと思っています。

認定看護師教育課程修了後の活動報告

法華津 清子

認定看護師教育課程を修了後も、私は以前から所属していた緩和ケア病棟で勤務しています。仕事の内容自体は大きな変化はありませんが、私が仕事をする上での気持ちは以前

より大きく変わったと思います。まず、患者さん・ご家族に対してどのような状況にも真摯に向き合おうと思ったこと、そして、一緒に仕事をする他のスタッフや多職種に対して感謝の気持ちを忘れずにいたいと思いました。そのために自分にできることは何かを模索し、少しずつではありますが前に進んで行っています。

今後は患者さん・ご家族にもっと頼ってもらえるような認定看護師になりたいと思っていますし、多職種との共働を強め患者さん・ご家族を多面的に支えていきたいです。また、沢山の地域の人や地域の医療機関に対して緩和ケアの必要性を知ってもらうための活動を行こうと思っています。

認定看護師教育課程修了後の活動報告

松岡 サヨコ

緩和ケア認定看護師教育課程を修了し、希望を胸に半年ぶりに自施設に戻りました。自施設は、8月に緩和ケア病棟が始まったばかりです。修了してからの私の立場は副主任でしたが、開設したばかりの病棟で、物品ひとつの場所すらわからず、戸惑いながらのスタートでした。

しかし、病棟看護師のほとんどは緩和ケアの経験がなく専門的知識が十分とはいえない状態であり、私が持ち帰った情報に、看護師ばかりでなく医師も耳を傾けてくれ、自分の言葉に責任の重さを感じました。病室が全て個室であるため、患者は気持ちが表出しやすくなり、一方ではそのことが看護師のストレスにつながることもあり、そのためにコンサルテーションを受けることが多くなっています。

教育委員を担当しており、今後は看護師の技術や知識が向上し、患者に質の高い看護が提供できるように年間を通して研修を行うことを計画しています。

認定看護師教育課程修了後の活動報告

森 友紀

大切な仲間と一緒に多くのことを学んだ半年間の教育課程修了後に自施設に戻り、緩和ケアチームの専従看護師として活動しています。当院は地域がん診療連携拠点病院であり、がんの診断から治療を行っている急性期の総合病院です。しかし、総合病院であるがゆえに、直接”がん患者さん”に関わることのないスタッフも多く、また患者さんの緩和ケアの認知度も低く、人によっては「緩和ケア」という言葉に対して拒否される方もいるのが現状です。

しかし、2人に1人ががんになる時代となった今、「診断されたときからの緩和ケア」の実践に向け、急性期病院でもできることを、この半年間で学んだことを活かし、患者・家族の望むQOLが保てるようなケアに繋げていきたいと思っています。

5月の認定審査へ向け自己研鑽に励み臨床でも患者・家族から多くの事を学ばせていただきたいと思います。

認定看護師教育課程修了後の活動報告

山口 麻紀

緩和ケア認定看護師候補者として、病棟内で直接看護を提供しながら、患者さんやご家族の苦痛をトータルペインの視点で捉え、苦痛緩和に努めています。また1月より緩和ケアチームのリーダーを任され、月に1~3回は横断的に活動させてもらい、他病棟の患者さんやご家族のケアや療養に関する相談を受けています。また、院内の認定看護師会にも参加し、現在当院で活躍している認定看護師の活動を参考にさせてもらっています。

そして平成25年度は看護専門外来が開設予定であり、他分野の認定看護師と共に準備を行っています。教育課程入学前と修了後では業務量は増えましたが、焦らずできることから自分に言い聞かせながら、業務を行っています。しかし、まずは認定審査に合格することです。日々関わる症例を通して学習を深めていきたいと思っています。

認定看護師教育課程終了後の活動報告

山口 美穂子

現在は、血液内科病棟の配属です。病棟内では特別活動はおこなっていません。教育課程入学前から参加していた疼痛緩和リンクナース会に所属し、月に1回リンクナース会に参加して実践しています。今回、久留米大学認定看護師教育センターで緩和ケアを学んできたことを、伝達講習・勉強会という形で月に1回研修を行っています。その内容は、主に精神症状の症状緩和と看護についておこなっています。さらに副看護部長から、エンゼルケアの手順の見直しを依頼され、検討しているところです。

当院は急性期病院ですが、医療者であっても、緩和ケアは終末期の医療であり、何もせずに見守ることのように解釈をされているのが現実ではないかと思っています。

各病棟からリンクナース会に参加しているメンバーはがん看護、症状緩和の看護にも関心があり意識の高いメンバーです。まずリンクナースを通して現状の把握やデイシュカッションの普及の場になればと考えています。今後も、緩和ケアリンクナース会での定期的な勉強会の継続を行っていきます。

また、緩和ケアに興味を持ってもらえるよう啓蒙活動や病棟内での実践・指導・相談から短期、長期計画で進めていきたいと考えます。

事例集について

緩和ケア認定看護師養成事業の成果物として事例集を作成しました。
学生が学びを深めるべく、実習で行った看護実践を振り返り考察した事例を収録した
ものです。各学生の事例テーマは以下の通りです。

1. 家族の「今できること」を支援する
ーチームアプローチを通してー (有田 まゆか)
2. 症状緩和がもたらすグリーフケアの効果
ー終末期患者とその妻との関わりを振り返ってー (久世 幸)
3. 患者の人生の意味付けを支える看護
ー家族とのつながりの中で生きる患者を見守るー (田口 直美)
4. 死の課程を支える看護
ーA 氏の語りの傾聴と看護実践を通してー (長谷川 美希)
5. 患者の〈援助へのニード〉をしるための関わり (法華津 清子)
6. 終末期患者を支える家族への援助
ー自宅退院を希望する患者の退院支援を通してー (原田 英一)
7. 「その人らしさ」を支える
ー沈黙の中にある患者の思いを受け止めてー (竹崎 薫)
8. 患者の希望を支える援助
ー排泄の援助を通してー (中村 園美)
9. 患者と医療者の関係性 (河野 えり)
10. 家族支援を通して (田中 千穂美)
11. 患者の心の痛み
ー患者の言葉の裏側ー (入江 弘子)
12. その人らしく過ごすために患者さんが教えてくれたこと (野中 小夜香)
13. その人の日常を支える関わり (山口 美穂子)
14. 思いに寄り添った看護援助を通して (坂口 由紀子)
15. 心の揺れが生じている家族への援助
ー家族への見守りを通してー (新留 咲子)

16. 看取りが近い患者・家族を通し学んだこと
ー鎮静中の患者とその家族と向き合ってー (森 友紀)
17. 疼痛を抱える患者との関わりで学んだこと (尾堂 将志)
18. 寄り添うことで学んだこと
ー小さなことを積み重ねてー (松岡 サヨコ)
19. 死の過程に不安を抱える患者との関わりを通して
ー死にゆく患者の希望を支えるケアー (上原 菜穂)
20. 寄り添い、共に過ごす時間を通して表れる患者の想い
ー言葉の表出が少ない患者との関わりでの学びー (野口 明子)
21. その人らしさを支える関わり
ーありのままの生活を支えるー (山口 麻紀)
22. 家族が患者の傍にいたいと言われる思いを尊重して (西山 ルリ子)
23. 患者の価値観を尊重する事についての考察
ー終日臥床しているがん終末期患者との関わりを通してー (熊谷 弘美)
24. 寄り添うケアの意味を考えて
ー呼吸困難を訴える患者の看護を通してー (林 恵子)
25. その人らしさを支える関わり
ー高齢社会における療養場所についてー (後藤 めぐみ)
26. スピリチュアルペインの強い患者への関わり
ー関わりを通して変化したA氏の様子ー (小林 理絵)
27. 希望を支えるケアを通して学んだこと (戸高 真由美)
28. 眠りたくないという患者の気持ちに寄り添うケア (松田 留理子)